

# 平成 29 年度 事業報告書

社会福祉法人白寿会

## 事業概要

<b>プレミア扇（東京都足立区扇1-3-5）</b>	<b>平成18年2月開設</b>
特別養護老人ホーム（全室個室ユニット型）	96名
短期入所	9名
デイサービス	30名
運動リハビリ強化型デイサービス	20名（10名×2）
訪問介護	
居宅介護支援	
人材育成等事業	

<b>プレミア草加南（埼玉県草加市柳島町890-4）</b>	<b>平成26年4月開設</b>
地域密着型特別養護老人ホーム（全室個室ユニット型）	29名
短期入所	10名
グループホーム	18名
居宅介護支援	
生計困難者への相談支援事業	

<b>プレミア東松戸（千葉県松戸市紙敷297-2）</b>	<b>平成29年3月開設</b>
特別養護老人ホーム（全室個室ユニット型）	70名
特別養護老人ホーム（従来型多床室）	30名
短期入所	10名
デイサービス	30名
居宅介護支援	

## 1 概要

平成 29 年度は、喫緊の課題である制度変更への対応に加え、中長期的な事業環境の変化への対応に向け準備を同時並行的に行う年度となりました。

まず直近の制度変更に関しては、社会福祉法人制度改革により法人運営における組織体制、運営のあり方が一新されたところですが、定時評議員会の設置開催、業務執行理事の設置に加え、各種内部規約の整備も滞りなく終了しています。また介護保険における処遇改善加算の変更に関連し、29 年 6 月より給与規程の改定を実施、職員待遇の改善を進めたところです。

中長期的な事業環境の変化において、最も重要なテーマが人材の確保、育成といえます。数十万人規模で介護人材が不足する将来予測もあり、事業者としては、極力採用の門戸を広げると同時に、内部で早期に育成していくための採用、教育、評価といった一連の人事関連施策、そして業務負担の軽減の観点から、体制面、業務面、設備面と複合的にインフラを整備拡充していく必要性があります。当法人では、29 年度より人材開発室を新たに設け、介護分野において解禁された外国人技能実習生や留学生の受け入れ準備を進めており、30 年度内に 5 名程度の来日を予定しています。また、各拠点において業務の見直しを含めたマニュアルの更新を行い、定期面談時のフィードバックの一環としての評価システムとともに業務標準の確立、定着を進めているところです。情報システム投資、介護ロボットを含む福祉機器の新規導入にも数年来取り組んでおり、次年度にはプレミア扇のリニューアル、プレミア草加南へのリフト機器の設置を予定しています。

拠点ごとに見ると、プレミア扇拠点では、特養、ショートステイは年間を通して、看取り介護が増加する中であって高稼働を維持することができました。運営面ではフロアリーダーを中心とした業務推進体制が軌道に乗りつつあり、統括主任の配置を行ったところです。マニュアル類の再整備、リニューアルプロジェクトへの現場職員の参画などをはじめとして、各職員による主体的な業務への取組が見られています。デイサービスは稼働率が停滞傾向にあり、競合事業所が増加する中、地域志向でのサービス見直し、環境の更新を通じた回復が求められます。ファンビル、訪問介護、居宅介護は概ね予定どおりに推移しています。ファンビルでは職員体制の整備を終え、より運動効果を意識した科学的なアプローチの実践、訪問介護では介護保険外サービスの拡充、居宅介護では法改正で注目された医療連携の強化に加え、地域との関わりを深化、こうした事業所それぞれの課題に引き続き取り組んでいます。

プレミア草加南では、ショートステイの稼働が不安定となり収入の確保に苦戦しました。給与規程の改定、職員配置の増加により人件費が上昇したことも相まって収益性は落ち込みました。特養は、個別性を尊重したケアへの取組、マニュアル類の更新を続けており、30 年度に予定するリフト機器の導入、他拠点との連携の強化により、一層の専門性の向上に努めます。グループホーム、居宅介護支援は概ね堅調に推移しています。

プレミア東松戸では、特養は年度前半には満床となり、ショートステイも年度末に一定の稼働を確保するに至りました。デイサービスは送迎をはじめとした運営システムを、稼働の上昇とともに検討する必要性が高まってきています。全体的に職員間の連携、業務構築の面で課題を残しており、30 年度も継続して改善を図っていきます。居宅介護支援は利用者数が大きく増

加しており、30年度前半に3名体制への増員、特定事業所加算の算定を予定しています。

拠点ごとに現状、課題は異なるものの、29年度からは3拠点下でのスケールメリットを活かすべく、法人全体での知見、人材の有効活用として職員の交換研修、他拠点への出向等の取組を行うことが出来ました。今後はコストダウンにつながるテーマ、サービスの向上につながるテーマを設定しながら拠点をまたいだ協働を進めていきます。

最後に、法人の事業展開の進捗に関連し、東松戸が開設間もないことから具体的な計画の立案には至っていませんが、何箇所かの候補地選定を進めることが出来ました。上述の既存事業所の状況を確認しながら計画化の時期は検討しますが、新拠点の設置だけに限らず、既存事業所周辺でのサービス展開、子育て支援などの他の福祉分野への進出も視野に、30年度も継続して検討を行います。

### ①扇拠点概況

- ・特養、ショートステイでの高稼働状態を維持
- ・看取り介護が劇的に増加、質向上に向けた取組みを継続中
- ・24Hシート、マニュアル類の整備は現在進行中
- ・リニューアルプロジェクトの設置、プランの概要固まる
- ・ファンビルの利用者増、内部体制の整備が進展
- ・訪問介護の黒字化、介護保険外サービスの検討を着手
- ・デイサービスの稼働は停滞傾向
- ・地域交流会、敬老会等の定例行事の実施
- ・天井走行式リフトの設置、見守りセンサーの選定
- ・外国人技能実習生の受け入れ準備

### ②草加南拠点概況

- ・特養、ショートの収入低下
- ・GHは安定的な稼働は維持、職員の入れ替わり等により人件費増
- ・特養、GHともに24Hシートの更新、運用を通じた個別ケアの取組過程
- ・居宅は3名体制での安定運営
- ・屋上園芸、介護予防運動、生計困難者相談支援事業といった草加南独自の取組の定着
- ・特養の人員が不安定なところもあり、適正配置、定着を目指す
- ・特養での食事提供方法、看取り時の医療連携について検討を要する

### ③東松戸拠点概況

- ・特養はフル稼働、ショートも年度内に一定水準に到達
- ・デイサービスの稼働が伸び悩むも、サービス面は高評価、送迎体制等に課題
- ・職員間の連携、定着など運営面の課題
- ・初年度実地指導においては指摘事項なく、基準に沿った運営を実施
- ・居宅は2名体制となり、早期に3名体制および特定事業所加算の算定を目指す

## 2 財務状況の概要

平成 29 年度は、法人全体での当期活動増減差額が約 6,739 千円、次期繰越活動増減差額が 194,392 千円となりました。前年度の当期活動増減差額との比較で約 65,513 千円の増額となっています。

(法人全体 事業活動収支計算書 3 カ年概略推移：円)

科目	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	前年度比
<b>サービス活動収益計</b>	<b>942,255,647</b>	<b>997,025,332</b>	<b>1,510,928,330</b>	<b>513,902,998</b>
介護保険事業収益	941,981,747	996,976,605	1,510,916,970	513,940,365
経常経費寄付金収益	273,900	48,727	11,360	-37,367
<b>サービス活動費用計</b>	<b>878,917,854</b>	<b>1,032,403,305</b>	<b>1,490,852,099</b>	<b>458,448,794</b>
人件費	546,888,835	639,892,671	929,982,987	290,090,316
事業費	133,990,994	167,261,214	226,816,071	59,554,857
事務費	134,222,269	145,611,117	211,738,711	66,127,594
減価償却費（取崩除）	63,699,414	79,638,303	122,314,330	42,676,027
<b>サービス活動増減差額</b>	<b>63,337,793</b>	<b>-35,377,973</b>	<b>20,076,231</b>	<b>55,454,204</b>
サービス活動外増減差額	-9,536,089	-10,909,117	-13,336,913	-2,427,796
<b>経常増減差額</b>	<b>53,801,704</b>	<b>-46,287,090</b>	<b>6,739,318</b>	<b>53,026,408</b>
特別増減差額	-918,806	-12,487,031	0	12,487,031
<b>当期活動増減差額</b>	<b>52,882,898</b>	<b>-58,774,121</b>	<b>6,739,318</b>	<b>65,513,439</b>
<b>次期繰越活動増減差額</b>	<b>246,427,401</b>	<b>187,653,280</b>	<b>194,392,598</b>	<b>6,739,318</b>

拠点別では、プレミア扇拠点は十分な当期活動増減差額を確保しておりますが、プレミア草加南拠点は人件費の増加を主要因として、またプレミア東松戸拠点は開設初年度のため、それぞれ当期活動増減差額のマイナスを計上しています。

(拠点別事業活動収支計算書：円)

科目	プレミア 扇	プレミア 草加南	プレミア 東松戸	合計
サービス活動収益計	717,094,114	296,875,979	496,958,237	1,510,928,330
サービス活動費用計	663,364,879	304,776,582	522,710,638	1,490,852,099
人件費支出	434,306,111	193,110,754	302,566,122	929,982,987
事業費支出	92,790,915	42,490,381	91,534,775	226,816,071
事務費支出	95,061,394	42,492,665	74,184,652	211,738,711
減価償却費（取崩除）	41,206,459	26,682,782	54,425,089	122,314,330
<b>サービス活動増減差額</b>	<b>53,729,235</b>	<b>-7,900,603</b>	<b>-25,752,401</b>	<b>20,076,231</b>
サービス活動外増減差額	-3,966,685	-4,021,830	-5,348,398	-13,336,913
<b>経常増減差額</b>	<b>49,762,550</b>	<b>-11,922,433</b>	<b>-31,100,799</b>	<b>6,739,318</b>
特別増減差額	0	0	0	0
<b>当期活動増減差額</b>	<b>49,762,550</b>	<b>-11,922,433</b>	<b>-31,100,799</b>	<b>6,739,318</b>
<b>次期繰越活動増減差額</b>	<b>354,478,497</b>	<b>-25,272,448</b>	<b>-134,813,451</b>	<b>194,392,598</b>

プレミア扇拠点サービス別概況では、ファンビル（リハデイ）のみマイナスとなっておりますが、その他のサービスはプラスの事業成果となっております。

(プレミア扇拠点サービス別事業活動収支計算書：千円)

科目	本部	特養	短期	デイ	訪問	居宅	リハ デイ	人材 育成
サービス活動収益計	0	520,697	56,162	69,792	22,215	34,205	14,023	0
サービス活動費用計	896	500,399	38,875	56,185	22,089	30,431	14,489	0
人件費支出	0	310,091	25,851	40,464	20,599	27,457	9,843	0
事業費支出	0	80,821	5,950	5,775	39	95	112	0
事務費支出	263	77,463	5,176	7,220	979	1,867	2,093	0
減価償却費	663	32,024	1,898	2,736	472	1,012	2,441	0
<b>サービス活動増減差額</b>	<b>-896</b>	<b>20,298</b>	<b>17,286</b>	<b>13,607</b>	<b>127</b>	<b>3,773</b>	<b>-466</b>	<b>0</b>
サービス活動外増減差額	19	-3,545	-219	-255	40	-8	0	0
<b>経常増減差額</b>	<b>-877</b>	<b>16,753</b>	<b>17,068</b>	<b>13,352</b>	<b>167</b>	<b>3,766</b>	<b>-466</b>	<b>0</b>
特別増減差額	0	0	0	0	0	0	0	0
<b>当期活動増減差額</b>	<b>-877</b>	<b>16,753</b>	<b>17,068</b>	<b>13,352</b>	<b>167</b>	<b>3,766</b>	<b>-466</b>	<b>0</b>
<b>次期繰越活動増減差額</b>	<b>-13,557</b>	<b>200,366</b>	<b>90,647</b>	<b>87,872</b>	<b>-8,883</b>	<b>4,585</b>	<b>-6,550</b>	<b>1</b>

プレミア草加南拠点では居宅介護支援事業所が黒字化した一方で、特養、短期がマイナスとなっており収入（稼働の維持）の維持と人件費を中心に、サービス費用の見直しが今後の課題となります。

（プレミア草加南拠点サービス別事業活動収支計算書：千円）

科目	特養	短期	GH	居宅	生計 支援
サービス活動収益計	146,374	39,899	91,155	19,317	130
サービス活動費用計	153,426	47,698	86,981	16,558	114
人件費支出	89,856	30,069	57,733	15,452	0
事業費支出	23,521	5,818	12,978	59	114
事務費支出	26,326	6,013	9,495	659	0
減価償却費	13,722	5,797	6,775	388	0
サービス活動増減差額	-7,052	-7,799	4,173	2,759	17
サービス活動外増減差額	-2,169	-761	-1,150	58	0
経常増減差額	-9,220	-8,560	3,024	2,817	17
特別増減差額	0	0	0	0	0
当期活動増減差額	-9,220	-8,560	3,024	2,817	17
次期繰越活動増減差額	-9,556	-22,890	18,608	-11,352	-83

プレミア東松戸拠点は開設後1年のこともあり、年間を通しての稼働状況となっていないため、各サービス事業所ともにマイナスとなっております。30年度は稼働の上昇により大幅に収支が改善される予定であります。

（プレミア東松戸拠点サービス別事業活動収支計算書：千円）

科目	特養	短期	デイ	居宅
サービス活動収益計	445,820	21,142	25,464	4,532
サービス活動費用計	455,202	27,680	32,057	7,671
人件費支出	267,504	13,501	14,960	6,601
事業費支出	81,742	4,996	4,776	20
事務費支出	63,637	3,951	5,830	767
減価償却費	42,319	5,231	6,491	282
サービス活動増減差額	-9,383	-6,538	-6,593	-3,138
サービス活動外増減差額	-5,351	0	-3	5
経常増減差額	-14,734	-6,538	-6,595	-3,133
特別増減差額	0	0	0	0
当期活動増減差額	-14,734	-6,538	-6,595	-3,133
次期繰越活動増減差額	-111,993	-7,354	-9,619	-5,730



法人の現金等の動きを表す資金収支計算書では当期資金収支差額が 17,913 千円となりました。収支ともに概ね予算どおりの執行となっています。

(法人全体 資金収支計算書 3 カ年概略推移：円)

科目	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	予算
事業活動収入計	947,036,022	1,001,562,129	1,516,091,340	1,510,012,000
事業活動支出計	823,295,944	958,934,506	1,374,753,342	1,385,906,000
<b>事業活動資金収支差額</b>	<b>123,740,078</b>	<b>42,627,623</b>	<b>141,337,998</b>	<b>124,106,000</b>
施設整備等収入計	372,146,824	1,865,993,000	1,664,000	2,896,000
施設整備等支出計	493,122,726	1,902,491,358	93,324,308	91,872,000
<b>施設整備等資金収支差額</b>	<b>-120,975,902</b>	<b>-36,498,358</b>	<b>-91,660,308</b>	<b>-88,976,000</b>
その他収入計	653,480	12,176,204	0	0
その他支出計	13,852,760	39,087,065	17,241,640	17,217,000
<b>その他活動資金収支差額</b>	<b>-13,199,280</b>	<b>-26,910,861</b>	<b>-17,241,640</b>	<b>-17,217,000</b>
<b>当期資金収支差額</b>	<b>-10,435,104</b>	<b>-20,781,596</b>	<b>32,436,050</b>	<b>17,913,000</b>
<b>当期末支払資金残高</b>	<b>277,706,684</b>	<b>256,925,088</b>	<b>289,361,138</b>	

以降 各拠点事業所の報告内容については、各事業所窓口備付のファイルにて  
確認ください。